

サーチウオークが15周年

頭と体を使って楽しむ



電柱を見て数字を記入する参加者ら

NTTの札(上の白い札)の表示を手がかりに目標の電柱を探し、東京電力の札(下の札)に書かれた数字を記入する。電柱ごとに得点が決められており、見つけた電柱の合計得点を競って楽しむ。

サーチウオークとは、地図に示された情報をもとに目標の電柱を探し出して得点を競う競技。野山の中で地図上に表されたチェックポイントをたどってゴールまでのタイムを競うオリエンティングをもっと身近な場所で開催しようという、区内親睦ヶ谷在住の金江宏さん(73)によって、15年ほど前に考案された。2001年には栄区サーチウオーククラブが設立され、栄区を中心に研修会や大会などを実施。08年には日本サーチウオーク協会(金江宏会長)が設立され、同協会は昨年NPO法人格を取得。横浜市内を中心に少しずつ広まっている。競技には、独自に作られた地図を使用。この地図には電柱の場所を示すNNTの電柱番号が書かれており、参加者はこの番号から

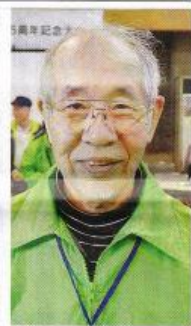
栄区発祥の競技「サーチウオーク」が、誕生から15周年を迎えた。3月14日には本郷地区センターを中心に15周年記念大会を開催し、区内外から50人以上が参加。大人子どもも頭と体を使って競技を楽しんだ。



目標の電柱を探し出す。街中を歩き回るオリエンティングの要素に加え、目標の電柱がどこにあるのか予測するため頭の運動にもつながり、子どもから高齢者まで楽しめる競技となっている。

記念大会に約50人

14日の記念大会には、小学生から大人まで50人以上が参加。この日は初心者が多いこともあり、サーチウオークの入門編として考案された「サーチU」への参加が大半を占めた。サーチUの場合は、地図上に目標の電柱の番号だけなく場所も示されているため、気軽にサーチウオークの感覚を楽しめる。参加者は、本郷地区センターをスタートして、地図を片手に区内を歩き回って電柱を探した。指定された目標の電柱を見つけて番号を記入し、最後には同センターへ戻ってゴール。終了後には表彰式が行われ、会場は盛り上がりだった。今回初めてサーチUに参加した女子高生は「疲れ



日本サーチウオーク協会 金江宏会長

見つける喜び広めたい

電柱の場所を記録する仕事を請け負ったことをきっかけに、電柱番号の仕組みを競技にできると考えた金江さん。仕事で電柱を探す中で、「見つけた時には喜びや嬉しさを感じた」という。もともとオリエンティングやウォーキングに取り組んでいたこともあって、サーチウオークを考案。「落とした財布を探して見つけた時の喜びが続けて起る感じ。ゆくゆくは全国へ広げていきたい」



●栄区サーチウオーククラブの会長を務める

栄区発祥の競技を各地へ

題字は 林文子 横浜市長

立花 正則さん

犬山町在住 63歳

境があることからウォーキングに取り組んでいた。しつながらを求めて地域活動かし次第に普通のウォーキングではつまらなくなってそのついでに、町内会でのいき、そんな時にサーチウオークの研修会が行われる。今年からは、その通りだった達成感「ふらっと栄」のサは魅力」というように、地ポーターにも登録して活躍し出すというサーチウオークの持つ新たな要素に惹かれ、区や港南区、磯子区などにわたっていった。現在ではスタも支部も持ち、鎌倉でも大ッフとして競技に使う地図会を行うなど少しずつ規模も作成。事前に現地を見下見を拡大、「より楽しめる競争する必要もあり、準備には注力していただければ」と話、かなりの時間や手間がかか、参加者からの意見収集をリジナルの地図や難しい間ころを盛り込むなど、競技題を作ることも楽しみみの魅力を高めるために試行つ」と笑顔。参加者側だけ錯誤を続ける。「楽しさは、でなく運営側としても、競やってみないと分からない。栄区技を楽しんでいる。ぜひ体感してほしい」。栄区「会社の中だけで関発祥の競技を、各地に広めていく。」

○栄区から誕生した競技「サーチウオーク」が、誕生から15周年を迎えた。3月14日には本郷地区センターを中心に15周年記念大会を開催し、区内外から50人以上が参加。大人子どもも頭と体を使って競技を楽しんだ。

○栄区から誕生した競技「サーチウオーク」が、誕生から15周年を迎えた。3月14日には本郷地区センターを中心に15周年記念大会を開催し、区内外から50人以上が参加。大人子どもも頭と体を使って競技を楽しんだ。